



神奈川県議員
き さ き
木佐木 ただまさ
日本共産党

いのちとくらし
守る政治をご一緒に

<プロフィール>

- 神奈川大学法学部卒
- 元法律事務所職員
- よこはま健康友の会副会長
- 横浜東民商顧問
- 弓道初段 1984年生まれ

子育て支援 医療・介護など社会保障の充実 中小企業支援等 党神奈川県議団が要望書を提出

10月15日、毎年行っている共産党県議団としての県に対する予算要望を行いました。

例年であれば知事に対して行うのですが、今年は知事の本会議場での暴言に対して慎むことを求める決議案をだしていたことも影響したのか、中島副知事が対応することとなりました。

議会内での出来事と、県民生活にかかわる事柄を切り分けて考える「大人の対応」を期待したのですが、知事にはその

度量がなかったということでしょうか。非常に残念に思います。

500を超える要望項目

要望書は、7月から9月にかけて様々な方や、団体の皆さんとの懇談や要望を受けて作成した500を超える要望を取りまとめたものです。内容は子育て支援、医療・介護など社会保障の充実、中小企業支援等、切実なものです。知事には、この切実な要望をしっかりと受け止め



て」来年度の予算を取りまとめてもらうことを強く要望してきました。

要望書の全文は、党県議団ホームページに掲載しています。どうぞご覧ください。

「1987、ある闘いの真実」を観て

現在公開中の映画「1987、ある闘いの真実」を観てきました。これは、お隣の韓国で実際にあった軍事独裁政権からの民主化を勝ち取ったきっかけとなる事件を描いたもので、あらすじは以下のようなものです。

「1987年1月、全斗煥大統領による軍事政権下の韓国。南営洞警察のパク所長は北分子を徹底的に排除するべく、取り調べを日ごとに激化させていた。そんな中、行き過ぎた取り調べによってソウル大学の学生が死亡してしまう。警察は隠蔽のため遺体の火葬を申請するが、違和感を抱いたチェ検事は検死解剖を命じ、拷問致死だったことが判明。さらに、政府が取り調べ担当刑事2人の逮捕だけで事件を終わらせようとしていることに気づいた新聞記者や刑務所看守らは、真実を公表するべく奔走する。また、殺された大学生の仲間たちも立ち上がり、事態は韓国全土を巻き込む民主化闘争へと展開していく。」(シネマトゥデイ・解説より引用)

この映画の内容がたった31年前(若い人には大昔かもしれませんが...)に実際にあったことが衝撃でした。

国が国民を監視し、情報を統制し、不都合なことは隠蔽・改

ざんをしてごまかすことで体制の維持を図っていた。これは決して昔の話ではないということを皆さんも感じるのではないのでしょうか。映画のエンロールを迎えるころにははからずも涙がこぼれてしまいました。

この映画を観て感じたことは、「愛国」とは何だろうということですよ。今の体制を擁護することでしょうか？過去の目を瞑ってしまいたい事実を改ざんすることでしょうか？国のために国民の命を投げうつように求めることでしょうか？

私は、一人ひとりを尊重し、国民のための国であるということを確認して、活動する政府をつくっていくことではないかと思えます

沖縄では、辺野古新基地はいらないという民意がたびたび示されているにもかかわらず、それを踏みにじることが強行されようとしています。憲法の改悪、安保法制・秘密保護法の強行採決など、個人の権利を矮小化し、国民の権利を制限する法律を強行してきた今の政権は決して「愛国」ではありません。国民を蔑ろにし、偽りの愛国を語る政府には一刻も早く退場してもら

